

中近東の食生活と イスラーム陶器の需要

Eating Customs in the Middle East
and the Demand for Islamic Ceramics

岡野智彦

はじめに

① 食事の風景

② 調理器や食器としての陶磁器

③ イスラーム陶器の需要と中国陶磁器

【論文要旨】

中近東は、中国や日本そして東南アジアに匹敵する、世界でも有数の陶器生産地であった。特にイスラーム時代になって以降、中近東では陶器の需要と製産が、著しく進展した。従来イスラーム陶器に関する研究論文や研究書は多数出版されているものの、今ひとつ判然としないのが、陶器の用途である。食器、貯蔵器、装飾品などさまざまな用途が考えられるが、ここでは食器としての陶器について考えてみたい。

料理書やミニチュール絵画に見られるように中近東では、一つの器に盛られた料理を全員で囲んで食べる、それが貧富の差を越えて見られる食事の風景であった。料理書には、食事や調理に用いられたさまざまな食器や調理具の名称やその用途が記されているが、具体的な姿を知ることはできない。そこで参考になるのが、発掘調査の出土品である。出土した土器や陶器を料理書の記載と比較研究することによって、判然としない出土品の用途を推測することができる。また発掘調査の結果から、陶器が日常生活の中に浸透していった過程をも想定することができる。イスラーム時代初期には饗宴の席でしか使われなかった陶器が、時代が下るとともに中近東の食事の風景のなかに食器として徐々に見られるようになっていった。輸入品として遙か東方よりもたらされた中国陶磁器もイスラーム陶器の製産や需要に大きな影響を及ぼした。中近東各地の遺跡の発掘調査で出土した中国陶磁器とイスラーム陶器の出土量を比較することによって、輸入港など中国陶磁器の入手が容易な地域では陶器の需要が低く、内陸都市や小都市など中国陶磁器の入手が困難であった地域では、陶器の需要が高かったことが想定できる。このようにイスラーム陶器の需要の様相は、中近東においても地域や時代そして生活習慣などによってさまざまな違いが見られるのである。